

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年 5月 7日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
三枝 まり	さえぐさ まり	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ <b>講師</b> ・助教	男・ <b>女</b>

## 担当科目名

音楽表現IA、音楽表現IB

## 学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成12(2000)年3月	桐朋学園大学 音楽学部 作曲理論学科 卒業	学士(音楽)
平成15(2003)年3月	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程 修了	修士(政策・メディア)
平成22(2010)年3月	東京藝術大学大学院 音楽研究科 博士後期課程 修了	博士(音楽学)

## 教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
東京藝術大学音楽研究センター	平成22年4月 ～平成25年3月	教育研究助手
東京藝術大学大学院	平成25年4月 ～平成28年3月	専門研究員
独立行政法人日本学術振興会	平成28年4月 ～平成30年3月	特別研究員 RPD
ベルリン芸術大学	平成29年5月～8月	客員研究員
小田原短期大学	平成30年4月 ～現在に至る	保育学科通信教育課程 講師

## 所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本音楽学会	平成14年9月～現在	会員、常任委員会会計幹事(平成24年4月～平成26年3月)
東洋音楽学会	平成14年10月～現在	会員
洋楽文化史研究会	平成17年6月～現在	会員
日本音楽教育学会	平成26年4月～現在	会員、音楽文献目録委員(平成28年4月～現在に至る)

## 社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
特記事項		

## 担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
中学校教諭一種免許状(音楽)	平成12年 3月	東京都教育委員会
高等学校教諭一種免許状(音楽)	平成12年 3月	東京都教育委員会

## 研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 又は発表学会等 の名称	概 要
(著書) 1. 『日本の吹奏 楽史: 1869 - 2013 年』	共著	平成25年12月	青弓社	吹奏楽曲創作の歴史や軍楽隊の変遷などの基礎知識、ポピュラー音楽への影響などコラムもためになる、吹奏楽の過去といまがわかる入門書。民間の音楽団体である三越百貨店とそこに併設された少年音楽

				隊を取り上げ、軍楽隊の吹奏楽の教育と演奏が、今日に至る日本の西洋音楽の実践に大きな役割を担ったことを明らかにした。 担当：第1章「多様化する吹奏楽―三越少年音楽隊の活動と新たな音楽文化の形成」(27-54 ページ) 戸ノ下達也(編著)、三枝まり、奥中康人、都賀城太郎、寺田卓矢、上田誠二、長木誠司、中橋愛生、福田 滋
2. 『音楽家 近衛秀麿の遺産』	共著	平成 26 年 6 月	音楽之友社	日本のオーケストラ創成期に活躍した作曲家・指揮者の近衛秀麿の音楽活動と、雅楽の管弦楽化の過程について執筆を担当した。特に、近衛秀麿の欧米での活躍と、日本に交響楽団をどのように組織し育成してきたのかを検討することによって、近衛の音楽活動は戦前から戦後にかけての日本の西洋音楽受容史において比類なく大きな役割を担ったことを明らかにした。 担当：「第二章 近衛秀麿の日本のオーケストラへの貢献(43-105 ページ)」、「第四章 近衛秀麿による《越天楽》―欧米で紹介した日本の音楽―」(179-204 ページ)「年表」(附録 4-7 ページ)、「資料 1 1923 年に近衛秀麿が聴いた演奏会」(附録 38-39 ページ)、「資料 3 著作目録」(附録 42 ページ)「資料 4 日本で初めてマーラーの管弦楽曲が演奏されたときに使われた楽譜」(附録 43 ページ) 藤田由之、榎崎洋子、三枝まり、近藤滋郎
3. 『戦後の音楽文化』	分担執筆	平成 28 年 1 月	青弓社	時代を象徴する事象と音楽の関わり、転換点になった歴史的なイベント、市民生活で育ってきた合唱・演奏文化、ポピュラー音楽の展開など、戦後 70 年とこれからの音楽を考えるとという視点からキーワードとコラムを選んで、コンパクトに解説する読む事典。 担当：「ラジオ歌謡」(101-103 ページ)「みんなのうた」(140-142 ページ)「君の名は」(185-188 ページ) 戸ノ下達也(編著)
4. 『近衛秀麿研究：作品・資料目録データベース作成と資料の分析を通して』(研究代表者：三枝まり)	共著	平成 29 年 3 月	科学研究費補助金(若手研究(B))研究成果報告書；平成 26~28 年度)	近衛音楽研究所所蔵資料のうち、近衛秀麿による作曲・編曲楽譜の整理がほぼ完了した。本報告書は、解題を付し、資料の内容を公開したものである。今後の展望として、研究体制の整備、近衛秀麿の指揮および音楽活動とその活動の意義を考察、ヨーロッパにおける活動の調査の必要性を指摘した。 担当：「日本における西洋音楽受容と所蔵楽譜との関係について」(27-40 ページ)、「近衛秀麿作曲・編曲資料目録」(41-92 ページ) 近衛一、水谷川忠俊、藤田由之、榎崎洋子、西原稔、三枝まり
5. 『ラジオ歌謡名曲集 思い出のうた 心のうた』	分担執筆	平成 30 年 4 月	株式会社ユーキャン	ラジオ歌謡の鑑賞ガイドを執筆した。 担当：「幼子をあやししながらロザさんだアカシヤの花」『ラジオ歌謡名曲集 思い出のうた 心のうた』
(学術論文) 橋本國彦の「芸術的歌謡」概念と近代日本の音楽の課題	単著	平成 22 年 3 月	東京藝術大学『東京藝術大学大学院音楽研究科博士論文』	2 0 世紀前半の日本の音楽界において、作曲家・演奏家・指揮者としてばかりでなく、東京音楽学校の教官として教育界においても足跡を残し、その門下生から黛敏郎、矢代秋雄、芥川也寸志、団伊玖麿、畑中良輔など

				の人材を輩出した橋本國彦を取り上げ、昭和前期における橋本の日本歌曲創作に対する取り組みを、作品の様式性や、音階、和声などの橋本國彦の音楽語法の点から明らかにした。
橋本國彦とラジオ歌謡	単著	平成22年9月	ラジオ歌謡研究会『ラジオ歌謡研究』第3号	橋本國彦がどのような芸術思想のもとでラジオ歌謡の創作に関わったのかを検討するとともに、彼の全8曲のラジオ歌謡の音楽的な特徴について考察を加えた。ラジオ歌謡は、彼の理想である「民衆のための音楽」を体現するものであったことを指摘した。(13-32ページ)
東京音楽学校における「新歌曲(1931)」編纂	単著	平成22年	東京藝術大学『東京藝術大学音楽学部紀要』第36号	昭和初期における唱歌編纂掛事の事業の一つである『新歌曲』に注目し、この曲集がもつ意味と作品の意義について明らかにした。(103-120ページ)
昭和の大衆歌謡史における橋本國彦(1904-1949)	単著	平成24年9月	ラジオ歌謡研究会『ラジオ歌謡研究』第6号	東京音楽学校の作曲主任教授をつとめた20世紀前半の日本を代表する作曲家橋本國彦は、大衆歌謡史にも足跡が残した。そこで、1920年代から1950年にいたる時代に焦点を当て、昭和時代前期の大衆歌謡に対する橋本の取り組みを、彼の創作活動や彼の「歌謡」の思想との観点から考察した。(12-30ページ)
諸井三郎の初期の創作に関する研究：スルヤ時代の歌曲を中心に	単著	平成25年3月	国際基督教大学キリスト教と文化研究所『人文科学研究』第44号	戦後、文部省で音楽教育行政に携わった諸井三郎の作曲活動の土台となったスルヤ時代に焦点を当て、初期創作の課題と創作思想を取り上げた。(57-84ページ)
山田耕筰、信時潔、橋本國彦における言葉と音楽	単著	平成24年11月	洋楽文化史研究会主催演奏会「信時潔とその系譜」プログラム冊子	日本の古典や伝統文化を再評価しつつ、西洋の新しい作曲技法を取り入れて新しい日本の音楽を創作する課題に、山田耕筰、信時潔、橋本國彦がどのように向かったのかを考察した。その結果、三人の作曲の姿勢や方法は異なるが、個々の詩を通して表現されるべきと信じていた日本語による日本的リートを創るという共通の目的に導かれて創作活動を行っていたことが明らかになった。
(その他) (翻訳書) <i>Szymon Goldberg collection catalog</i>	共訳	平成27年3月	Tokyo: Center for Music Research, Tokyo University of the Arts.	ヴァイオリン奏者、指揮者として活躍し、日本のヴァイオリン教育にも貢献したシモン・ゴールドベルクの資料カタログである『シモン・ゴールドベルク資料目録』(東京芸術大学音楽研究センター、2013年)を英訳した。 Sekine Kazue ; translated by Anno Mariko, <u>Saegusa Mari</u> ; translation revised by Konoe Fumiko
(その他) (書評) 書評『近衛秀麿亡命オーケストラの真実』(菅野冬樹著)	単	平成30年3月	図書新聞	第3344(2018年3月24日)号

(その他) (招待講演) 「橋本國彦 (1904-1949)と宗教」	単	平成24年9月	国際基督教大学 キリスト教と文化 研究所特別講演 演会	近代日本の作曲家の中から、音楽家、橋本國彦を取り上げて、最晩年におけるキリスト教への洗礼に結びついた過程を考察した。
(その他) (口頭発表) 「橋本國彦 (1904-1949)の歌謡概念」	単	平成20年10月	日本音楽学会	第59回全国大会, 国立音楽大学(東京)
Development of Japanese vocal music focusing on Qunihico Hashimoto: Music representation between the Japanese tradition and the avant-gardism of the early Showa era	単	平成22年5月	The Musicological Society of Japan	International forum for young musicologists 2010 in Yokohama, Keio University.
橋本國彦 (1904-1949)の欧 米滞在期間の活動	単	平成22年11月	日本音楽学会	第61回全国大会, 愛知芸術文化センター(名古屋)
橋本國彦の交響曲 第2番の研究	単	平成23年11月	日本音楽学会	第62回全国大会, 東京大学(東京)
諸井三郎の創作の 原点をめぐって～ 戦前の音楽活動を 中心に	単	平成24年11月	日本音楽学会	第63回全国大会, 西本願寺聞法会館(京都)
A study of Hidemaro Konoye: His view on orchestral music and his contribution to the history of Japanese reception of Western music.	単	平成25年10月	East Asian Regional Association of IMS	The 2nd Biennial ConferenceS, National Taiwan University.
近衛秀麿のオーケ ストラ演奏におけ る『近衛版』の問 題について—昭和	共	平成25年11月	日本音楽学会	第64回全国大会、慶應義塾大学(東京) 藤田由之、三枝まり

<p>前期の管弦楽作品の受容の一側面として</p> <p>戦前における日本音楽コンクール作曲部門の歴史とその役割</p> <p>The Orchestration of Gagaku Music by Hidemaro Konoye and His Musical Perspective</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>平成 26 年 11 月</p> <p>平成 29 年 3 月</p>	<p>日本音楽学会</p> <p>International Musicological Society</p>	<p>第 65 回全国大会、九州大学（福岡）</p> <p>20th Quinquennial Congress in Tokyo, Tokyo University of the Arts.</p>
<p>（曲目解説）</p> <p>「NAXOS 日本作曲家選輯 東京芸術大学編 橋本國彦:交響曲第 2 番、三つの和讃、感傷的 諧 謔 (CD8. 572869J)」</p> <p>NAXOS 日本作曲家選輯 山田一雄:大管弦楽のための小交響楽詩「若者のうたへる歌」、交響的木曾 Op. 12 他 (CD8. 570552J)</p>	<p>共著</p> <p>単著</p>	<p>平成 23 年 11 月</p> <p>平成 25 年 3 月</p>	<p>ナクソス・ジャパン</p> <p>ナクソス・ジャパン</p>	<p>曲目解説を執筆した。平成 23 年度文化庁芸術祭参加作品。2012 年 第 11 回サライ大賞-CD・DVD 部門賞受賞。 大角欣矢、福中冬子、三枝まり</p> <p>曲目解説を執筆した。</p>
<p>（その他）</p> <p>（インタビュー）</p> <p>「三越少年音楽隊と西洋音楽」</p>		<p>平成 30 年 4 月</p>	<p>『月刊日本橋』</p>	<p>第 468 号（2018 年 4 月 1 日、pp.8-12）</p>
<p>その他（表彰等）</p>				